

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2870700610		
法人名	有限会社日本健康管理システム		
事業所名	グループホームひまわり		
所在地	兵庫県神戸市須磨区行幸町4-4-8		
自己評価作成日	令和元年5月7日	評価結果市町村受理日	令和元年6月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.wam.go.jp
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人CSウオッチ
所在地	兵庫県明石市朝霧山手町3番3号
訪問調査日	令和元年5月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は交通の便が良く、周辺は歴史的な史跡があり近くに水族園や離宮公園などの観光施設にも恵まれている環境にあります。
利用者様は毎日、事業所内で調理した食事を職員と一緒に食べるなど、「ゆっくり・一緒に・楽しく」を理念に家庭的な雰囲気の元で日常生活を送っています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【優れている点】・運営規程中4つの運営方針を集約した「ゆっくり・一緒に・楽しく」の実現を目指している。H23年に当地に移転したが、以前立地がグループホーム運営に環境的に恵まれた背景を参考に当地における理念に基づく運営にむけた諸課題に積極的にチャレンジしている。【工夫点】・運営推進会議録は玄関カウンターに設置し訪問時自由に閲覧可能としている。・事務所内の目立つ箇所に事故報告やヒヤリハット記載用紙等を置き、リアルタイムに記載への仕組み工夫がなされている。・災害用として各利用者用非常持ち出しリュックサックを簡易BOXに収納整備工夫し、備蓄管理も適切に行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆっくり・一緒に・楽しく」の理念を挙げ、職員の意識付けを図るため理念を掲示している。	事業所理念は事務所に掲げ、昼ミーティングで唱し共有して日々の支援場面等での「ゆっくり・一緒に・楽しく」の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所の催しには地域の方へお知らせを配布し、自治会のクリーン作戦やふれあい喫茶等の活動には事業所から参加している。	地域自治会には事業所として参加し、総会出席や当施設の催しお知らせ配布、自治会のクリーン作戦に清掃参加やふれあい喫茶等活動に参加し、地域の一員として日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場ではサービスの状況などの報告で話をするがあるが地域の人々に向けて活かしていない。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	出席者からご意見やアドバイス等があるときはサービスの向上に活かせるように取り組んでいる。	1階の併設小規模多機能型と合同で開催し、利用者、家族、民生委員、地域包括担当等サービス取り組み報告後意見交換を行い、事故・ヒヤリハット事例における意見等は事後速やかに職員と共有し、防止への対応を進めている。	別途リスクマネジメント委員会との再発防止検討などより、全職員で薬取扱いの更なる意識向上への取り組みが期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括や役所の利用者個人の福祉担当者とは連絡し合うなど関係性があるが市町村との連携が出来ていない。	利用者個人特性による市福祉担当との連絡機会はありますが、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝える段階には至っていない。	市担当連絡時等で事業所の活動特徴やケアサービスの効果例等意図的に伝え提供する工夫推進が期待される。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が研修を受け身体拘束をしないケアに取り組むよう周知を図っている。研修だけではなく新聞等の報道を事例に話し合いをするなど一人一人が意識を持って自覚できるよう取り組んでいる。	市の指導にもとづき身体拘束をしないケアの年2回研修や報道事例等による話し合いを計画的に推進し、特にグレーゾーン課題等職員一人一人の意識向上と自覚にむけ積極的に取り組んでいる。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年数回の研修や事例検討を実施し学ぶ機会を設けている。職員が困っている事や悩んでいることがある時は話を聞くなどの機会を作っている。	管理者や職員は年2回以上の研修や事例検討を行い、当該対応で職員が困っている事や悩みや言葉の使い方等見過ごすことがないよう気付いた時点で注意等対話の機会をつくり防止に努めている。	

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修を実施しているが全職員に受けることが出来ていない。成年後見制度を利用している方がいるのである程度は理解出来ている。	権利擁護の研修では全職員受講まで至っていない。現在成年後見制度活用者は3名在籍し、必要に応じ、後見人による研修を実践している。	研修受講に至らない職員への出席管理者による伝達講習等や研修資料や研修報告回覧等共有工夫が望まれる。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時に十分の説明と不明な点と質問等を伺っている。契約終了前にも契約終了についての説明を再度行っている。	契約締結時に使用資料を全て読み上げ契約者の不安・疑問等関心事を伺い、これらには納得がいくまで十分な説明を行っている。契約終了時点も再度説明を行い理解・納得を図っている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営に関する意見や要望を表す機会について説明を行っているが意見や要望がなく反映できていない。	運営推進会議、意見箱設置、訪問時等利用者・家族等意見・要望を外部者に表せる機会を設け反映する仕組みを整備している。介護や個々の要望の対応が主となっている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所内で開催の会議等に管理者が出席し、職員の意見や提案を聞く機会がある。管理者は代表者や法人内の会議等内で伝えている。	事業所開催の会議や各ユニットミーティング等職員意見や提案を聞く機会を有している。これらは月1回の法人代表主催の所長会で報告し反映を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し条件の整備や可能な限りの職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会に取り組み参加できるようにしている。新人職員にはOJTを通じて学ぶ機会がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との連絡会に加入し交流する機会があり情報交換など行いサービスの質の向上に活かせるよう取り組んでいる。		

自己 者 第	三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居面談時に本人が困っている事や不安なことを聞き、安心を確保するための関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の相談があった段階から家族等が困っている事、不安なこと等を聞き関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時点で今、必要とする支援を見極め他のサービスも含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来ることを見極め、利用者一人一人に応じた支援や物事を一緒に行うなど暮らし全般への中で共に協力関係が築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族との絆を大切にし、関係が断ち切れないよう支援し共の支えていく関係を築いている。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の来訪や馴染みの場所に行くなど関係が途切れないよう支援に努めている。	本人がこれまで培ってきた人間関係や社会との関係を把握し、その関係を断ち切らなようにしている。地域に暮らす知人4～5人と月1回喫茶店へ出かけたり、年末年始家族と過ごすために外泊したり継続的な交流が出来るよう働きかけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、関わり合いが出来るよう取り組んでいる。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した後も報告や相談をうけるなど関係が続いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人一人の思いや意向の把握に努めている。	一人ひとりの思い・暮らしの希望、意向の把握に努め、本人がどのように暮らしたいのか、何をしたいのかを理解するために日々の暮らしの中で言葉や表情などから真意を推し量り利用者の言葉や想いを日々の暮らしの中で汲み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	それまでの暮らしや生活環境、それまで受けたサービス利用の経過等を関係者から聞き取るなど把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の一日の過ごし方、心身の状態や有する力等の把握に努めている。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月モニタリングを実施し、アセスメントから課題や要望等を把握し関係者と話し合っって現状に応じた介護計画を作成するように努めている。	本人や家族には日頃のかかわりの中で思いや意見を聞き、反映させるようにしている。よりよく暮らすためのケア課題のあり方について全職員で意見交換しながら利用者主体の現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアでの気づきを記録に残している。職員間で情報を共有し実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所の特性を生かし、本人や家族の状況やその時々生まれたニーズに可能な限り対応するように努めている。		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会の広報や民生委員からの情報を受け地域の催しや活動を把握して参加するなど日々の暮らしを楽しめるように支援している。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医の受診が受けられるよう支援している。	一人ひとりの利用前の受診経過、現在の受診に希望を把握し、本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。月2回協力医の往診を受け結果の情報は家族へ報告している。眼科歯科の往診、認知症の専門外来は家族同行で受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は日々の関わりの中で得た気づきや情報を職場内の看護職員に伝え、相談している。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した時は医療機関に必要な情報を伝え、入院中も利用者の様子を医療機関や家族から聞くなど把握するよう努めている。	医療機関に対して、入院の目的をいち早く伝え、なるべく混乱しないよう、本人の普段状況や特徴など書式で情報提供している。認知症への対応や対処等は連携室へ直接電話し伝えている。入院中も家族回復状況等情報交換して速やかな退院支援につなげている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に事業所の方針を説明し、元気うちに本人や家族の意向を確認するよう努めている。日々暮らしている中で重度化してきたときも再度の説明を行い、必要な支援に努めている。	早期の段階で本人や家族の意向、本人にとってどうあったら良いのか、事業所が対応しうる最大の支援方法について説明し意思を確認している。一度決めても思いは常に揺れ動く状況より、医師と連携を図りながら安心して納得した最期を迎えられるように、随時意思確認しながら取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年一度の研修は全職員が受けるように努めているが、急変時や事故の発生時の対応への訓練ができていない。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時の避難訓練を年2回実施し、地域の協力を働き掛けている。非常災害時の対応については研修の場で避難について伝えている。	運営規程に明示の災害計画にもとづき年2回の昼夜想定避難訓練を実施し、地域の協力を働きかけているが現段階実現にいたっていない。備蓄は各利用者用リュックサック収納箱に整備し管理されている。	避難訓練時には、地域掲示板など活用を図り、近隣の参加への更なる工夫が期待される。

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員によっては適切な言葉かけが出来ていない場合があり、接遇研修や虐待研修で取り入れるなど意識付けを図っている。	人前であからさまに介護したり、本人を傷つけてしまわないよう、さりげない言葉かけや対応を心がけている。誇りやプライバシー確保での研修会を開催しグループワーク等を通して日常的な確認と改善にむけ具体的に確認し合う機会を設けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を表せるよう働きかけ、自己決定できるよう取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを尊重し、本人の希望に沿って過ごせるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出やイベントではおしゃれが出来るよう支援し、日々の身だしなみにも気を配るように支援している。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	決められた献立の中で好みに合わせてアレンジしたり、調理の下ごしらえの手伝いなどもして頂いている。おやつは時々、手作りにするなど楽しみにして頂いている。	前日に材料が届けられ事業所で調理し提供している、一人ひとりの力を活かしながら下ごしらえや盛り付け、片づけ等利用者と共に行う。職員と利用者が同じ食卓を囲み同じものを楽しく食べることを大切に「食」を通じ様々な取り組みをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事量や水分量を記録し、摂取量が低下している時は主治医に相談している。一人一人に応じた食事形態や摂取方法を考えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨きやうがいを実施し、その人の出来る力に応じて支援している。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々の状況に合わせた方法で支援している。	トイレでの排泄を可能にするために、一人ひとりのサインや本人のリズムを職員が把握し、あからさまな誘導ではなく、さりげない支援に努めている。車いす使用の方も多いが排泄チェック表を活用し日中はトイレでの排泄ができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人の排泄の状態を把握し、便秘にならないよう水分摂取量を確認するなどの対応をしている。便秘時は主治医に相談している。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴ができるよう支援している。入浴予定日は決めてはその日の体調や気分に応じて変更するなど柔軟に対応している。	週2回午後から職員が一方的に決めず、利用者のその日の希望を確認し入っていただく。職員と1対1でゆっくり一人ひとりの習慣や気持ちに合わせて入浴支援をしている。希望される方には、入浴剤を使用したり好みに合わせてくつろいでもらう。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の状況に応じて休息したり、夜間は安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者個々の服薬の内容がいつでも把握でき、目的や用法等の確認を必要時に行っている。その人に応じた服薬支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の出来る力や役割、楽しみごとなどの気分転換等の支援をしている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望や一人一人に応じた外出を家族様の協力も頂き支援している。日々の散歩は天気や状態に応じて出かけられるように支援している。	一人ひとりの習慣や楽しみごとに合わせ、短時間でも戸外に出る機会を作り、外出できるように本人に合わせた移動の配慮をし、外出支援を進めている。毎月1回ふれあい喫茶へ、コンビニや神社への散歩。下階へ移動し気分転換の機会とし、状況に応じ戸外に出るチャンスとして活かしている。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いを所持して買い物等される利用者や家族の希望で事業所で金銭管理している方などそれぞれの事情に応じて支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族等と電話のやり取りをしたり手紙を出すなどの支援をしている。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間では季節を感じられるようにその月に合った壁画を利用者と一緒に作って掲示したり、料理をするなどの家庭的な雰囲気があり、居心地よく過ごせるよう工夫している。	共用空間は、利用者が不快、混乱を招くような刺激がないよう配慮され、季節感を得られる壁画や行事の作品や写真等掲示し又季節い有った食事工夫など居心地良く過ごせるような工夫を採りいれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間で気の合った方と一緒に過ごせるように座席の配慮を行っている。限られたスペースのため一人になれる空間がない。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前より用意するものを説明し、馴染みのものや使い慣れたものを用意して頂くようお願いしている。居室で居心地よく過ごせるよう椅子やテーブルを用意している方もいる。	居室は入居前説明でh馴染みのものや使い馴れたものを準備いただく説明をしており、現状は使い馴れた椅子やテーブル、写真や仏壇等本人が居心地良く過ごせる工夫や配慮をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリー対応をしているがその人の状態に応じて階段を使うなどの自立した生活を維持できるよう支援している。		